



◆2006. 12. 11(月) 発行◆

トゲチヨフォーラム開催

発行「トゲチヨ会津ネットワーク」事務局
国土交通省阿賀川河川事務所工務課
NPO法人会津阿賀川流域ネットワーク
〒965-0830 会津若松市西年貢1丁目7番45号
(社)北陸建設弘済会会津若松支所内

第2号

本号2ページ

トゲチヨフォーラム・・・・・・・・・・・・・1
第2回淡水魚フォーラム・・・・・・・・・・・・・2

流域学講座第3回 ～棲み家～

in喜多方 12月17日(日) 喜多方プラザ

新潟大学名誉教授の本間先生、福井県大野市「本願清水イトヨの里」副館長長谷川先生、そして、地元喜多方市立第二小学校の皆さん、さらに地元で活躍している皆さんの出席によるとても専門的でとてもためになりとても楽しい発表フォーラムです。



テーマは
「水環境とトゲチヨ(イトヨ)を考える」
です。

かつて私たちの住む会津にはきれいな水がここそこに流れていました。その流れには、背中にトゲを持つ小さな魚トゲチヨが泳いでいました。そんな光景はごく当たり前のことだと思っていました。しかし今、気付いてあたりを見渡してみても、そのような光景は見られなくなっていました。ごく普通にあったものが、知らずのうちに消えていく現実。そして私たち人間もいつかそのルールに乗るのかもしれない。トゲチヨ(イトヨ)はそのことを教えてくれているのかもしれない。

参加される方々の紹介

- ◆本間先生は、イトヨ研究において、淡水型イトヨと降海型イトヨ交雑、内分泌線、形態等の専門の先生です。
 - ◆長谷川先生は、福井県大野市のイトヨの里副館長さんで、「生き物と街づくり」などを得意とする先生です。
 - ◆地元喜多方第二小学校の皆さんは本年催された、ぼくらの水辺再発見マップ県大会で「私達の川にイトヨが帰ってきたよ」で最優秀賞に輝きました。その成果をお披露目します。
- 他に、地元のイトヨ保護団体の方々、漁協さん、行政の方々などの参加があります。
- 乞うご期待、乞うご期待、乞うご期待。

きれいな水。湧き水

にその生命をつなぐ

多くの生き物・・・

そこでは、人も魚も水草もさらには産業までもが関わっているのです。

淡水、湧き水のもつ魅力を探る。

第2回淡水魚保全シンポジウム

「湧水保全フォーラムinゆざ:ざわめく自然をめぐる」

が去る11月17・18日に山形県遊佐町にて開催されました。

トゲチョ会津ネットワークの想いとも重なる主旨でしたのでその大会の概要をお知らせします。

基調講座：森 誠一

一岐阜経済大学生物科学教授一

『湧水生態系における“ざわめく自然”』

ー日本＝川国論ー

日本は山国である。この山国観を別の角度から見れば川の多さを意味する。つまり我が国は「川のクニ」といえる。川のクニは川の多さだけを意味するものではない。川は平地をつくり、人を集め人を生活の場とした。川のクニは表層水だけをいうのではない。伏流水も湧き水も陸水であり、日本の典型性を表すひとつである。つまり、我が国における水環境の典型性は豊富な水資源に支えられた、「史、文化、そして多様な生物相であった。しかし、これらは近代化に伴い変容した。そこで、この状況を展開するには、地域が地域に思い入れをもつ「郷土力」の育成が肝要である。

ー自然のざわめき：生き物の多様性ー

川は生活や意識の中からも距離を広げている。自然からの様々な声、ざわめきも距離を広げている。しかし、自然もざわめきをもたない自然が増えている。また、自然のざわめきを感じない知覚も増えている。人は今、ざわめく自然と接する努力もしなければ、原風景である、流域環境も消えてしまう。私たちは個々の胸に体感して、ザワザワする自然のざわめきを自らが取り戻し、伝承すべき時がきてい

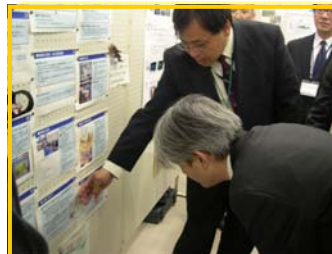
その他には・・・

- ▶ 湧水環境に棲む淡水魚類の多様性
北海道大学教授 後藤 晃氏
- ▶ 農林地域の資源保全と稀少種の保護
秋田県立大学准教授 神宮宇 寛氏
- ▶ 湧水を支える地域水循環
大同工業大学助教授 鷲見 哲也氏

などの方々の研究発表がありました。

地元からの発表者もあり、とくに西遊佐小学校生徒による地元の町中を流れる西通川に棲む生き物に思いを込めた発表とそれを歌にして合唱をした場面では、多くの参加者に感動を与えました。

また会場には、多くのポスターセッションがあり、この会の会員でもいらっしゃる秋篠宮殿下もご出席になり参加者と親しくお話をされていました。



熱心にお話を聞かれる秋篠宮殿下

西遊佐小学校生徒による大合唱♪



あかかわ

流域学講座

第3回

ドングリコロコロの唄がある。

「お池にはまってさあ大変！ 棲み家

どじょうが出てきて

こんにちは・・・やっぱりお山が恋しいと、泣いてはどじょうを困らせた♪」という唄。

棲むということは一時的なことではない。

ずっと永く棲み、子をつくり、その場を子に譲る。

その繰り返しが出来る場を、棲み家という。

人間はいたるところを知恵と技術と称するもので棲み場とした。しかし他の生き物は、自らの身体を進化という変化でそこを棲み場とした。人間の棲み場は知恵と技術でコロコロ変わる。その度に他の生き物は変化しきれずにそこを去る。

やっぱりお山が恋しいと思っても、その道理はかなわない。季節は極寒に入る。生き物の泣き声が、北風に混じってヒューヒューと泣く。。